

オオキンケイギク

科 名：キク科
学 名：Coreopsis lanceolata
原産地域：北アメリカ

特定外来生物

総合対策外来種

産業管理外来種

定着予防外来種

日本の侵略的外来種
ワースト100種

高山
・高原

森林

農地

都市地
・宅地

河川

湖沼
・池沼

【どんな被害を引き起こすのか】

生態系：在来植物の駆逐

- ・繁殖力が旺盛であり、大きな群落を形成
- ・他の植物に届く光を遮り、生育を阻害して他の植物種を駆逐する
- ・河川敷に固有の在来植物の減少を招く

【生育場所】

- ・河川敷、道路沿い等の日当たりの良い場所
- ・しばしば大群落をつくる



筒状花

舌状花

- ・5～7月頃、直径5～7cmのオレンジ色の花を咲かせる
- ・舌状花と筒状花はともに橙黄色、花冠の先は4～5裂する

高さ0.3～0.7mになる多年生草本



- ・茎は根元から束状に多数生育
- ・根元につく根生葉は3～5枚の小葉に分裂し、花時にも残る
- ・茎につく葉は対生または互生
- ・茎や葉は無毛又は開出毛がある
- ・夏～秋に結実
- ・果実は扁平な楕円形で黒く、翼(よく)がある

【どこまで広がっているか】

長野県では

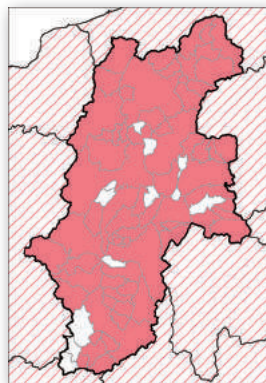
- ・全県的に分布

全国では

- ・明治中期に北米から観賞用や緑化植物として持ち込まれた
- ・現在は、ほぼ全国で野生化

世界の分布

- ・台湾、オーストラリア、ニュージーランド、サウジアラビア、南米等(温帯域)



2019年現在
■ 定着 ■ 一部地域に定着



←細長いへら状の葉

葉のふちはなめらか

点在するロゼット (3月)→

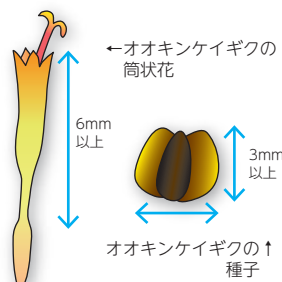


【間違わないで！主な類似植物】

ホソバハルシャギク (キク科) (外来種)

オオキンケイギクとよく似たホソバハルシャギクは、特定外来生物ではありません。葉のつき方で見分けられるとされていますが、実際には難しいようで、花と種子のサイズが有効な区別点とされています*。

花の中心部の筒状花の花冠長がオオキンケイギクは6mm以上、ホソバハルシャギクは4.5mm以下と小さいこと、種子のサイズ(長さまたは幅)がオオキンケイギクではふつう3mm以上あるのに対し、ホソバハルシャギクでは3mm以下と一回り小さい



*富山県中央植物園だより No.91 (2019年4月)

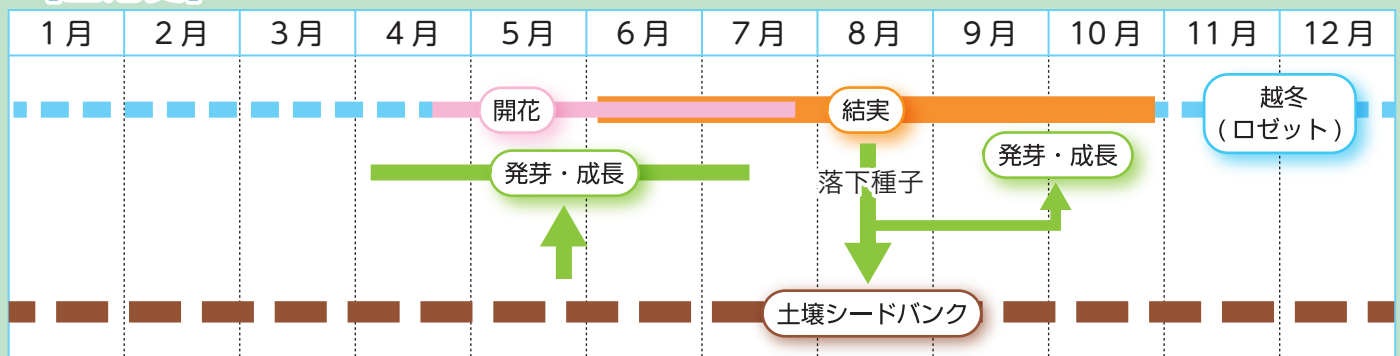


地上部がロゼット (丸く広がり地面にへばりつく) の状態で越冬する

【特性】

- ・種子は休眠性があり、土壌に埋まっても発芽能力を維持しており、土壌シードバンクを形成する
- ・海外での事例では、埋土種子の生存期間は2～13年との報告がある
- ・種子には翼があり、風や水、土壌の移動による散布が知られている
- ・刈り取り後、地下部が残ると速やかに再生し、翌年には開花する

【生活史】



【防除方法】

作戦を立てる！

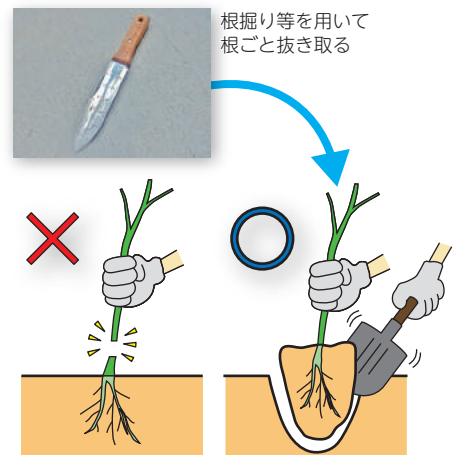
根茎からでも増えるオオキンケイギクは、根を残さないこと、種子を作らせないことが重要です。現場の状況、作業人数、使用できる道具によって、選択できる防除方法は異なります。どのような防除に取り組むか、まずは作戦を立てましょう。

作業を見直す！

防除効果を実感できないときこそ、作業の見直しが重要です。記録した実施内容や経過の観察から減らない要因を考え、道具を使う、作業回数を増やすなど、作業を効果的にする方策を探りましょう。

抜き取り 根絶を目指す

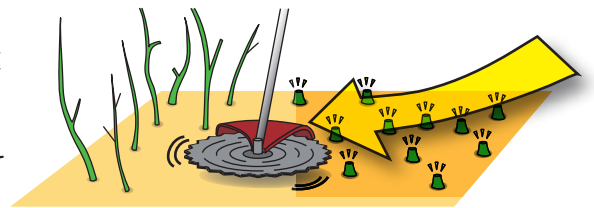
- 種子のほか根茎でも拡がり、根茎の一部分でも残っていればそこから再生するため、根ごとしっかりと抜き取る
- スコップや根掘り等を用いて根ごと抜き取る
(できるだけ根を残さないように！)
- 年1回以上(種子を散布する結実期が始まる前の5月頃まで)、継続して実施する
 - ※ 抜き取った株に花や果実が付いている場合は飛び散らないよう、袋に入れる等の配慮が必要
 - ※ 土壌中には大量の種子が存在し、さらに種子の休眠期間が長い可能性がある
 - ※ 周囲から種子が供給される可能性もあり、毎年継続して作業することが必要



刈り払い 抑える

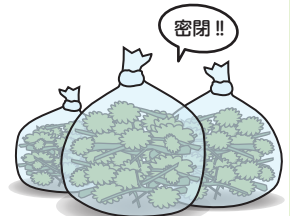
広範囲を防除したい場合に適している

- 刈払機等による刈り払いは抜き取りに比べると作業は軽微であり、種子をつける前に実施すれば、種子による繁殖を抑える効果がある
(ただし、残った地下茎から再生するため、継続した実施が必要)
- 年に3回以上(種子を散布する結実期が始まる前の5月頃まで)、継続して実施する
 - ※ 1回の刈り取り程度では、切株からたくさんの茎が発生し再び花をつけるため、継続した実施が必要



きっちりと処分する ～作業後～

- 抜き取ったまたは刈り払ったオオキンケイギクは、密閉できるゴミ袋等に入れて枯らす
- それぞれの自治体のゴミ処理方法に従って焼却処分する
 - ※ 特定外来生物に指定されたものは、原則として「飼育、栽培、保管及び運搬すること」、「輸入すること」、「野外へ放つ、植えるまたはまくこと」、「譲渡、引き渡し、販売すること」が禁止されている
 - ※ なお、以下のすべてに該当する場合は、運搬・保管が可能
 - ・ 防除した特定外来生物である植物を処分することを目的として、ごみの焼却施設等に運搬するもの
 - ・ 落下や種子の飛散等の逸出防止措置が運搬中にとられているもの
 - ・ 特定外来生物の防除である旨、実施する主体、実施する日及び場所等を事前に告知する等、公表された活動に伴って運搬するもの
 - ・ 保管中の逸出防止措置がとられており、第三者が容易に持ち出すことができないよう実施する主体において管理され、かつ必要最低限の期間に限り行う場合



拡げない ～新たに植えない・残さない～

- オオキンケイギクは黄色で目立つ花をつける
- 花がきれいだからといって、野外に生育する株や種子を持ち帰って自宅に植えることは絶対にしない
- 清掃活動等で草刈りを行う際には、残さずにしっかりと刈り取る